

子どもの居場所、大学生も育つ中学生勉強会

新潟県

新潟市東区学習習慣支援プログラム

支援対象: 生活保護世帯・非課税世帯

支援方法: 学習習慣支援

スタッフ数: 80 名程度

実施団体: 新潟市東区学習習慣支援プログラム

代表者: 小澤薫



住所: 〒950-0806 新潟市東区海老ヶ瀬 471
新潟県立大学

TEL: 025-270-1189 FAX: 025-270-1189
e-mail: ozawak@unii.ac.jp

成り立ちと活動の全体像

新潟市東区生活保護担当部署の熱意ある働きかけから始まった。低所得世帯で育つ子どもたちの高校中退など、教育環境の不備が教育意欲を低下させ、それが就職につながりにくい状況、いわゆる「貧困の連鎖」を断ち切ることに対する高い問題意識があった。そこから低所得世帯の子どもに対する「学習習慣支援」の取り組み、実施に向けて、新潟市と新潟県立大学で協議を重ねてきた。当初は、新潟市からの委託事業として大学が、学習習慣支援のための「子どもの居場所」を運営してきた。2012年度からは、運営主体が新潟市東区社会福祉協議会となり、実施してきた。「子どもの居場所」の会場の運営には地域の方、直接的な学習習慣の支援については、大学生がかかわっている。行政、社協、大学が連携し、それに地域住民、大学生がかかわることで、地域の問題を地域で考えることにもつながっている。また、卒業した高校生の要望を受けて、自主学習の環境確保を中心とした高校生勉強会も始めた。子どもたちとの継続的な関わりに繋がっている。

この会であれば聞ける（質問できる） 中学生の変化

授業中に教科書を開かない、テスト前に勉強をする感覚がない、できないことを開き直るなど、自分たちとは異なる姿勢に戸惑いながらも、あの手この手で中学生とのかかわりを深めていこうとする学生たち。そのなかで、中学生にとって、勉強会の会場は、聞くことができる、質問ができる場所として機能しているということ。ふだんの関わりの中で、中学生が学校では先生に聞ける環境になく、授業についていけないことを大学生が感じ取っている。誰に聞いてもわからない、友達にも言えない、わからないことを友達にも隠す、そういう子どもたちがこの会のなかで、聞けるようになっている姿に、大学生が刺激を受けている。さらに、大学生はわからないことがわからない人に教えることも苦労している。まず、わからないことがわかるために、中学生との関係を深め、加えて、その内容を、他の学生に引き継いでいくことで、中学生の学習習慣支援の向上につながっている。

沿革

- 平成 22 年 12 月 新潟市東区学習習慣支援プログラムの運営と事業評価に関する研究（大学への委託研究）
- 平成 22 年 12 月 「子どもの居場所（低所得世帯の中学生に対する無料学習会）の実施
- 平成 24 年 4 月 運営主体が新潟市東区社会福祉協議会に変更（業務委託）
- 平成 26 年 9 月 高校生勉強会（参加していた中学生対象）の開始

主な活動

- ・低所得世帯の中学生に対する学習習慣形成の支援（土日に開催）
- ・大学生がサポーターとして、中学生の自主学習を支援
- ・7月ウェルカムパーティ（新しい中学生、大学生の顔あわせ）
- ・8月夏休みスペシャル（県立大学を会場として、夏休みの宿題、課題に取り組む）
- ・2月受験直前スペシャル（3年生を対象に、平日の夕方、追い込みをする）
- ・3月ありがとうの会（中学3年生を送る会）
- ・連絡調整会議の開催（2ヶ月に1回）行政、社協、大学、サポーターリーダーによる意見交換（子どもの様子など）
- ・9月、11月、2月高校生の定期試験前に勉強会を開催

中学生のことが気になって参加を増やす、 大学生の変化

参加当初はバイト優先で、空いている時間に参加していた大学生が、中学生と距離が近くなってから、バイトをやりくりしながら、勉強会を優先するようになった姿。中学生と仲よくなって、自分が面倒をみるようになって、受験もあり、もっと勉強みてあげたいと思うようになったという。サポーターが毎回変わってしまうため、どのように勉強を進めているか、また同じ勉強ばかりやっていないか気になることがあった。自分が行けばどこをやったかがわかるので、定期的に見たいと思うようになったという。このように大学生自身の変化もみられた。また、こうした大学生のかかわりから、家庭や学校で抱える子どもたちの不安、生きづらさを、みつける新たな窓口になった。実際に、大学生が中学生にさらっと言われた学校での気になることを担当教員に報告した。そのことを関係者で協議をし、関係機関につなぐことができた。



しっかり学び しっかり遊ぶ

新潟県

学びスペース あうるの森

支援対象: 生活保護世帯の児童生徒

支援方法: 学習支援

スタッフ数: 3名

実施団体: 学びスペース あうるの森

代表者: 山田 竹紘



住所: 〒940-0026 新潟県長岡市石内2-3-9
TEL: 0258-37-0780 FAX: 0258-37-0780
e-mail: forestofownagaoka@yahoo.co.jp
URL: <http://www.ownomori.com/>

成り立ちと活動の全体像

学びスペースあうるの森は、塾・フリースクール・児童館を合わせたような新しいタイプの学習教室です。

平日 10 時～15 時までは不登校支援コースとし、不登校児童生徒の受け入れ、学習支援及び居場所の提供を行っています。

16 時以降は、放課後学びコースとし、共働き世帯の小学生の受け入れ及び学習支援を行っています。また、遠方の子どもは迎えに行き、希望者には食事のサービスも行っています。

更に長岡市からの委託事業として生活保護世帯の学習支援及び居場所の提供も行っています。

ある日の活動風景

学習支援を行っている様子です。

学習習慣は小学生の低学年から付けることが必要なので毎日しっかりと学習をしています。

分からないところをなくすため、スタッフが横について学習指導を行います。



沿革

- 平成 25 年 4 月 学びスペース あうるの森開業
- 平成 25 年 4 月 長岡市より生活保護世帯の児童生徒への学習支援を委託される。
- 平成 27 年 4 月 NPO 法人学びスペース あうるの森として活動

主な活動

不登校支援

平日 10 時～15 時までは不登校支援コースとしまして、不登校児童生徒の受け入れ、学習支援及び居場所の提供を行っています。

共働き世帯の子育て支援

16 時以降は、放課後学びコースとしまして、共働き世帯の小学生の受け入れ及び学習支援を行っています。また、遠方の子どもは迎えに行き、希望者には食事のサービスも提供しています。

生活保護世帯児童生徒の学習支援

生活保護世帯の児童生徒への学習支援を行っています。ただ学習支援を行うだけでなく、居場所としての側面も強く打ち出しており、家族や CW に話せないようなことを話したり、くつろいだりすることができます。

印象深いエピソード

生活保護を受けている世帯の子どもからピアノを習いたいという相談を受けました。ずっとピアノが習ってみたかったけれど家にピアノがないということと、ピアノを習うだけの費用が用意できないということで諦めていました。しかし、あうるの森にピアノがあることを知り、ピアノが習いたいという気持ちが再び出てきました。代表の友人にピアノが弾ける人がおり、頼んでみると二つ返事で引き受けてくれました。

レッスン本番子どもはとても緊張していました。習い事を受けるということが初めてだったと本人は話していました。しかし、レッスンが始まるととても楽しそうにしており、1 時間があっという間に過ぎていました。その後、毎週ピアノのレッスンを行いました。

子どものやりたいことがお金ということで制限されるということは、将来の可能性という面において、避けなければならないことだと痛感しました。



「ありがとうこの命 ありがとうあなたとの出会い」 高等学校卒業資格習得

新潟県

NPO 法人 人づくり支援機構 フリースクール 夢想舎

支援対象: 中学生 男/3名 女/2名 高校生 男/2名 女/1名 その他1名

支援方法: 相談、土曜日事業は送迎付き、スポーツ、地域行事への参加 学習支援、昼食作り(共同)、もの作り体験、種々の行事、体験活動

スタッフ数: 2名(指導員) 3名(ボランティア)

実施団体: NPO 法人 人づくり支援機構 フリースクール 夢想舎
代表者: 夏川 チエ



住所: 〒949-7121 新潟県南魚沼市山口 437-2
TEL: 025-775-3757 FAX: 025-775-3757
e-mail: free-musousya@pony.ocn.ne.jp
URL: <http://www.free-musousya.justhpbs.jp/>

成り立ちと活動の全体像

高校卒業資格のない者が社会参加をすることが困難であり、ひきこもりに陥る危険性が高い現状にある。この現状を打開するために何かできる事がないかと考えた結果、高校卒業資格習得と就労体験を積むことによる社会参加の促進に有効な事が、フリースクールの開校に結びつきました。(学習支援、体験活動、ボランティア、地域社会との交流)

ある日の活動風景

【地域のみなさんをお招きしての文化祭】

10月26日(日)

- ・朝顔のつるリース作り: 庭で育てた朝顔のツルを円く形作り、木の実や花を飾りつけ自然な雰囲気がかもしたされました。
- ・ひょうたんのランプ灯(種から): 庭で育てたひょうたんの実を加工し、ランプを作り幻想的で夢の世界におるようでした。
- ・牛乳パックによる和紙作り: さまざまな形の和

紙に思い思いの想いを墨で書きこむ

- ・生け花: 自然の中の野の花も使い想像力を巡らし思いのままに!
- ・手芸: アクリルタシ、ぬいぐるみ等
- ・火越し体験: 地域子どもたちを招き体験してもらいました、その道具は生徒が工夫しながら作り上げました。
- ・地域の方々を、たこ焼き、トン汁(自家製手作りみそ使用) お茶で接待

【地域の方々とフラワーロード作成の共同作業(その後の水くれ管理作業含む)】

6月1日(日)

南魚沼市、八海山に向かう観光道路、フラワーロードの花植え共同作業、地域全体の協力作業、子どもから高齢者まで揃っての花植え、花に接しながら、自然と地域の皆さんとふれ合うことができ交流の良い機会を持たせて戴いております。作業をやりながら、皆笑顔になっております。配置が終了してから6月から9月位まで花ガラ摘み、水くれ作業と夢想舎の生徒が責任を持って行

沿革

- 平成 21 年 2 月 NPO 法人 人づくり支援機構フリースクール夢想舎 認証
- 平成 21 年 4 月 NPO 法人 人づくり支援機構フリースクール夢想舎 開校
- 平成 25 年 4 月 南魚沼市福祉課より生活保護世帯等子ども健全育成事業委託
- 平成 26 年 4 月 同上

主な活動

- ・学習支援：希望によりサポート校フリースクール「夢想舎」に入校在宅通信教育を受講し、高校卒業認定を取得できます。
- ・相談支援（若者・保護者）：15 歳～39 歳（以外も相談可）
- ・若者の居場所：同じ悩みを持つ仲間との時間の共有、種々の体験活動（生活体験等）
- ・総合支援：各々の進路に向けての支援等（職場体験等）
- ・ボランティア活動：市の図書館ボランティア
- ・生活保護世帯等子ども健全育成事業（毎週土曜日送迎付き、福祉課より委託）：学習支援、生活体験等の活動（昼食作り、物作りなど）スポーツ、地域行事への参加

っております。

少し消極的な生徒でもこの作業の時には積極的に参加しております。



こどもの幸せを一緒に考えます

山梨県

こどもサポートやまなし

支援対象: 子供とその家族及び関係者

支援方法: 相談受付、子どもの預かり、学習(進路指導)、生活全般

スタッフ数: 約 20 名

実施団体: こどもサポートやまなし

代表者: 田代和生



住所: 〒400-0032 山梨県甲府市中区中央2丁目7番10号

甲府カトリック教会内

TEL: 055-237-8009

e-mail: kimura.tema@dream.com

成り立ちと活動の全体像

甲府カトリック教会には、外国人を含めて、病気や依存症・貧困・DV・一人親・国籍問題などを抱えて、子育てが大変になっている人々の相談が寄せられていました。

この問題について、地域の人々と考えるために、こどもの権利擁護のプロジェクト「こどもサポートやまなし」を平成 25 年に立ち上げました。(関連 10 団体と有志 50 名が参加)

活動は、各分科会(同行・支援、学習、住宅紹介、生活、一時預かり、相談)を中心に活動し、この全体調整を毎月定期開催の運営委員会で行いながら、利用者のニーズに応えるべく行っています。相談は、設立以来 約 70 件寄せられ、多くの案件では、相談・寄り添いを通して、会員と利用者の信頼・友情が育まれ、長期のかかわりが継続しています。

また、こどもの学習会では、毎回 10 名程度の中学生が参加していますが、勉強のほかにも、講師たちと多様な問題が話し合われています。

子どもに関わる諸問題は、その地域の中でより効果的なかかわりができるよう平成 27 年より「地域連絡所」の設置を始めました。

沿革

平成 25 年 5 月 設立
平成 26 年 専用相談電話回線敷設
平成 27 年 1 月 事務所開設と地域連絡所の募集開始

主な活動

送迎・同行支援
病院・各行政機関等への同行支援
教育（生活指導）
学習会、進学指導、学校との調整、キャンプ等の野外活動
住宅支援
アパートの斡旋、保証人・緊急連絡人の紹介、家財道具の支援
子どもの一時預かり等
こどもの緊急預かり、家族の緊急宿泊場所提供、里親相談
専用談話回線と面談による相談受付
生活支援
食料など経済的緊急支援、生活指導、近隣関係支援

夏のキャンプ

平成 26 年 7 月末、学習会参加者と団体会員からの子どもたちと自然豊かな甲府市郊外の山中でキャンプを行った。

川遊び、キャンプファイヤー、野草の天ぷら、段ボールの街づくりをしました。

夜は、星空を見る会等普段体験できない貴重な時間を過ごしました。



クリスマス会

平成 25 年・平成 26 年と 12 月に親子クリスマス会を開きました。

平成 26 年のクリスマス会には親子約 80 名が参加し、ケーキ作りや歌、ハンドベル、ビンゴなどを楽しみました。さまざまな困難な問題を抱え、相談に来られたお母さんや幼い子供たちが、参加し、かつての苦しみの分かち合いが、今楽しい分かち合いに変わったことを実感し、今後も継続して寄り添っていただけることをスタッフ一同喜び感謝した。



みんなが住みよい地域社会を目指して 発達障がい児理解の種をまこう！

長野県

発達障害児・者及び家族支援の会 シーズ

支援対象: 発達障害の当事者とその家族

支援方法: 来所による相談や支援、 会員は電話、メールでの相談も可、 訪問支援(条件有)、 同行支援(支援会議や受診などへの同行による支援)

スタッフ数: 3名

実施団体: 発達障害児・者及び家族支援の会 シーズ

代表者: 武山 弥生



住所: 〒393-0081 長野県諏訪郡下諏訪町社東町 14-8
TEL: 0266-75-0788 FAX: 0266-75-0789
e-mail: info@seeds2008.org
URL: <http://www.seeds2008.org>

成り立ちと活動の全体像

私の活動は、発達障がい児の親の会からスタートしました。親の会時代には、地域の他の会とも連携し、行政への嘆願書や署名運動により、発達障がい子どもらへの支援と制度の設置を訴えてきました。その中で私は、発達障がい児を抱える家庭に母子家庭が多いこと、そして、子どもの通院、療育への送迎などに時間をとられることや、育てにくいわが子との日々の生活で疲弊して働けないことで、生活が厳しい家庭が多いことが気がかりでした。私は、発達障がい児の母親支援について研究をするために、平成13年から放送大学、平成19年から信州大学大学院で学びました。

平成18年に私が実施した104人の発達障がい児の母親を対象にしたアンケート調査でも発達障がい児を抱えた母親の離婚率は、そうでない母親より有意に高いという結果が出ています。母親の貧困は、子どもの貧困に直結します。

私は母子支援のために、平成20年、親の会時代の仲間のメンバー、巡回相談などでお世話になった

養護学校の金井なおみ先生、社会福祉士の方など色々な方々の力をお借りしながらシーズを設立。

「発達障害の支援の種をまこう！」をモットーとし、民間組織として寺子屋のような活動をしています。設立時からずっと、多忙にもかかわらず月2回、特別支援教育のボランティアに来て下さる金井先生はじめ、シーズは様々な方々に支えられ、ささやかではありますが、発達障害支援の種を地域にまきつづけることができています。

平成24年から県立高校で発達障がいの支援の仕事をするようになり、配置された学校で、ひとり親家庭や外国籍の子、児童養護施設で暮らしている子、親子関係の困難から友人宅を転々とする子、野宿のような暮らしをしている子など、さまざまな困難を抱えた子どもらに出会いました。その困難事例には、子どもや養育者の発達課題がみられることが多く、子どもの貧困の要因のひとつに、発達障がいがあると感じるようになりました。子どもの貧困の解消は、子どもだけではなく、その保護者、家族まるごとへの支援が大切です。ことに母親の貧困の解消が重要だと考えています。

沿革

- 平成 13 年 4 月 ADHD の子どもをもつ親の会すまいるクラブ発足
- 平成 20 年 5 月 すまいるクラブの南信地区を統合する形で発達障害支援を目的としたシーズ設立
- 平成 20 年 6 月 事務所を下諏訪町に設置し相談をスタート
- 平成 20 年 10 月 第一回シーズフォーラム開催
- 平成 20 年 11 月 タイムケア事業スタート
- 平成 21 年 1 月 第一回ペアレントトレーニングをスタート
- 平成 25 年 5 月 県立高等学校特別支援教育支援員事業受託

主な活動

相談・アセスメント

- 発達障害についての相談やカウンセリング、それに伴う発達検査などのアセスメントを実施しております。

同行支援

- 必要に応じて支援会議などに同行し、会議内容の記録や助言を行っています。

トレーニング・指導

- 社会性を養うためのソーシャル・スキルトレーニングなどを個別、グループで随時開催しています。
- 特別支援教育による学習支援、補充を随時実施しております。
- 親子関係を改善するための保護者に対するペアレント・トレーニングを年 1、2 回シリーズで開催しています。

居場所支援

- 毎週火曜日 16 時～20 時 当事者のための「シーズカフェ」を開催。
- 毎月最終土曜日 13 時～16 時 保護者のための交流会を開催。

講座・セミナー

- 年に数回「発達障害」に関する講演やセミナーを開催しています。

ある日の活動風景

月 1 回実施している身体での自己表現をテーマとした演劇ワークショップ。指導は「ふじみどらま・すくーる」主宰の星野光秀先生。先生の自由であったかい人柄にひかれるように、毎回 10 人位が集まります。27 年 2 月、初めての発表会 & 公開ワークショップを開催。ワークは保護者や地域の方も一緒に楽しく活動でき大好評。自分を表現する活動こそ自己肯定感の源です。家族間のコミュニケーションを高める効果もあったようです。



非常に無口な少年少年 S 君

真面目で、内気な性格。小学校時代からいじめに合い続け、一日に何度も手を洗うなどの強迫症状が出て精神科に受診、発達障害と診断されました。勉強は得意ですが、体育など身体を使うことが苦手でした。親御さんとの相談がきっかけで、SST に参加するようになりました。SST に、彼はいつも穏やかな表情で参加していましたが、近況報告や活動の感想など発表の場面では、表情が硬くなり辛そうにみえました。そんな彼が、ある日演劇ワークショップでパントマイムをした時、みんなの前で初めて「朝の仕度」というテーマで非常に生き生きと発表したのです。正面を鏡に見立て、歯磨き、洗面、寝癖直しなど、細かい所までしっかり表現できていました。言葉ではなく身体で表現するパントマイムの活動により彼の自己表現力が開花した一瞬でした。それから彼は、しだいに周囲とうちとけていきました。

彼にとっての困難は関係性の貧困によるものでしたが、仲間をもつことで変わっていきました。

特定非営利活動法人ぱーむぼいす

支援対象: 小学生、中学生、高校生

支援方法: 学習支援、就労準備支援

スタッフ数: 16名

実施団体: 特定非営利活動法人ぱーむぼいす

代表者: 池田剛



住所：〒389-2301 長野県下高井郡木島平村大字
穂高 2895 - 8

TEL: 0269-67-0415 FAX: 0269-67-1415

e-mail: palm-voice2008@docomo.ne.jp (相談)

URL: <http://www9.plala.or.jp/palm-voice>

成り立ちと活動の全体像

小・中学生の保護者からの不登校や、発達障害などへの相談を受け、孤立しがちな地方部の子どもや保護者のために必要な支援を地域の資源を使って具体化していくようになった。

ある日の活動風景

利用者の声～早期対応の重要性～

私の中学2年生の息子が、不登校宣言をしてから、清水さんに相談する1か月近くの日々は、それはそれは、我が家もこれでバラバラかと思うくらいの出来事がいろいろありました。中学2年の夏休みが明けて3日目の朝の出来事です。時間になっても起きてこない息子を起こしに行きました。「時間だよ」という私の言葉に、「俺もう学校やめたから行かない」、この日に息子の不登校宣言がされたわけです。

それから毎日、担任の先生と話をするもさっぱりかみ合わず、夫の両親の気なるのは孫のことよりも世間体。仕事で忙しい夫は家のことなどがまっている暇は無し。妹弟もどうしちゃったんだろう兄ちゃんは・・・という感じでした。

この間、登校刺激も何度かしてしまい、どんどんひどい状態になっていました。「もう死んじゃいたい」という言葉に、私が1人でバタバタしているのは限界だと思いました。先生をやっていたこ

とのある清水さんに、藁をも掴む思いで相談をしたわけです。

そのときに『はーむぼいす』の活動を知りました。その瞬間から清水さんの息子のためのサポートが始まりました。

まずは、私たち親の息子に対する接し方と覚悟、学校の先生に対しては清水さんが直接話をしてくれることに。

そして、一番の大問題、夫の両親への説得には数回にわたり足を運んでくれました。母親としてはこれが大変な問題であったので、ここまでしてもらうサポートは大変力になりました。

今回清水さんという第三者の方と早期に連携・対応できたことは、現在の息子の様子からも非常に良いやり方であったと確信しています。親の話を聞く段階で、すでに苦悩から希望へと導くサポートに入っていると感じています。さまざまな問題を抱えた現代の登校児童・生徒への第三者による早期対応での確かなアプローチのもと、改善の可能性が見えてくると感じています。清水さんに早い段階で、息子の周りの人たちの気持ちを整理してもらったことで、登校するチャンスに先生方にも早い対応で答えていただけたと思っています。すべてのタイミングがうまくあったと感じています。学校側は第三者によるサポートの存在を大いにオープンにし、連携の取れる関係が大切だと考えます。私が1人でバタバタしているのが限界だったように、担任が1人ですべてを対応することにも限界があります。

沿革

- 平成 19 年 4 月 相談員配置
- 平成 20 年 4 月 相談にもとづき学習支援委員配置
- 平成 21 年 8 月 NPO 法人格取得。相談、学習支援、居場所支援
広報スタート
- 平成 22 年 NTT ドコモより相談事業への助成
- 平成 23 年 6 月 日本たばこ産業より居場所支援への助成
- 平成 23 年 4 月 通信制高校との教育提携、せぼーと校北信相談
センター開校
- 平成 24 年 10 月 長野県元気づくり支援金事業北信地方事務所
長賞受賞
- 平成 26 年 1 月 長野県知事来訪
- 平成 27 年 4 月 就労準備支援事業「ほっぶすてっぶ・JOB
college」開校

主な活動

- ・相談事業所（本人、家族、訪問）
- ・学習支援事業（不登校、発達障害、学習や学校生活に
苦手さをもつ子）
- ・さくら国際高校北信学習相談センター
- ・居場所支援（小～高）毎週土曜日午前
- ・研修（支援会議、講師、研修会）

私の息子は清水さんに会ったのは2回ほどですが、その間周りの大人たちは本人の気持ちに添って支援を続け、現在も続いています。「何か、俺知らないうちに急に学校へ行っているな・・・」つい最近の息子の言葉です。まだまだ山あり谷ありだと思っていますが、こじれる時間は短いほうが、その子にとっても早い段階で改善が望めるはずで

保護者の方より

利用者の声～学習支援利用者より～

私は5月から田端先生に学習を見てもらっています。きっかけは私が学校へ行かなくなったことで

す。修学旅行から帰ってきて、クラスに行くのが嫌になってしまい学校へ行かないことを決めました。もちろん中学3年生なので、勉強のことは心配でしたが、もう学校へは行きたくなかったのです。心配した母は田端先生に学習を見てもらったかどうか？と言いました。どんな先生か心配でしたが、数学が苦手でのままでは心配だったのでお願いすることにしました。

田端先生はいろいろお話をしてくれて、とても楽しい先生です。わかりやすく教えてくれます。問題が解けたら「完璧！すごいよ」と褒めてくれます。

間違えたときは丁寧に説明してくれます。そして、同じような問題が解けると「すごい、すごい！できているよ」と褒めてくれるので、やる気も上がります。

私は2時間教えてもらっています。2時間は長くて、集中力が切れてしまうこともあります。そんな時は勉強以外の学校でのことや将来のことなども、相談に乗ってくれます。学校での辛かったことも話しました。

私は今は、クラスへは行きませんが、相談室や少人数で学習しているクラスへ行っています。学校であったことを先生に話して、共感してくれるので「こういう風に思うのは私だけじゃないんだな」と思え、安心します。

中間テストの結果は相変わらずの点数でしたが、もう少し頑張れば点数につながっていくような、手ごたえは感じています。

でも、テスト用紙を前にすると緊張してしまうので、心配ですが・・・田端先生とこれから一緒にやっていけば大丈夫だと思います。「数学も楽しい」と思えるようになるまで頑張ってみようと思います。点数が上がって、田端先生と一緒に喜びたいと思います。

これからもよろしくお願いします。

中3女子



私たちは、若者達が精神的に元気になり、彼ら自身が悩んで考え、彼ら自身が責任を持って行動する事が出来るよう、共に悩み、考えながら支援をしている団体です。社会に出ようと一生懸命な若者達と共に悩むことで、私たち法人も成長をさせていただいています。また、彼らの近くにいることを伝えていかななくてはならないことを地域社会に伝える「代弁者」としての役割も担っています。

長野県

特定非営利活動法人ジョイフル

支援対象: 子ども若者 全般

概ね小学4年生～39歳まで

支援方法: しおじり若者サポートステーション

相談 訪問 講座 就労トレーニング 就労体験

スタッフ数: 14名

実施団体: 特定非営利活動法人ジョイフル

代表者: 理事長 横山 久美



住所: 〒399-0706 長野県塩尻市広丘原新田
291 番地の 2

TEL: 0263-51-9088 FAX: 0263-51-9088

e-mail: joyful@taupe.plala.or.jp

URL: http://www12.plala.or.jp/joyful_npo/

成り立ちと活動の全体像

私達NPO法人ジョイフルは、不登校や、ひきこもりに悩む子ども若者の居場所として活動が始まりました。居場所に通う人たちの声もあり、働く事への支援として、自立支援施設「カフェジョイフル」をOPENいたしました。「働く」を体験したり、働くことを続けていく事に慣れていくための「トレーニング」をしたり、多くの子ども、若者がこの場での経験をステップにして成長しています。平成18年6月からは若者サポートステーションを開所して、多くの若者の、社会的自立へ向けての支援をしてきました。そして平成24年4月からは、塩尻市勤労青少年ホームの指定管理者となり若者達の活動を支援し、施設管理の仕事を通じて働く体験と、就労トレーニングを行っています。家以外の日中の居場所から心の居場所へと、本人の成長における様々なきっかけづくりを心掛け、自立に向けての通過点となる活動をしています。

ある日の活動風景

就労トレーニング（施設管理の仕事を通じて）生活改善・就労トレーニングメニューとして3コースを用意し、それぞれの目標・目的を明確に社会的自立に向けてトレーニングを実施しています。各コースは、約1ヶ月の期間に12日前後の日程を決め、トレーニングをしています。1日の始まりの会では、業務に関わらず発声練習や仕事に必要な挨拶などを行いスタートします。声出しを行うことで来客者や、スタッフとのやり取り・挨拶がスムーズにできるように意識づけを行っています。本団体で指定管理をしている「塩尻市勤労青少年ホーム」では、設備点検、清掃活動を指導員のもと活動しています。ハウ・レン・ソウ（報告・連絡・相談）や、必要に応じメモを取るなど基本を大切にして、各自の目標を意識しながら日々取り組んでいます。就労トレーニングは、自立支援施設「カフェジョイフル」でも行っております。働くことが日常になるように、中長期的な就労トレーニングも行っ

沿革

- 平成 13 年 11 月 「みんなの居場所
ジョイフル」として
居場所を設立
- 平成 14 年 9 月 N P O 法人ジョイ
フル長野県知事認
証
- 平成 14 年 9 月 N P O 法人ジョイ
フル設立総会 設
立
- 平成 17 年 7 月 自立支援施設「カフ
ェ ジョイフル」を
オープン
- 平成 18 年 7 月 厚生労働省委託事
業 塩尻地域若者
サポートステーシ
ョンCAN 開所
- 平成 25 年 4 月 塩尻市勤労青少年
ホームの指定管理
を受託、開始

主な活動

- 不登校児童生徒支援事業 個別訪問・支援、イベント企画運営、保護
者相談・カウンセリングを行う。教育機関・行政機関との連携。
- 居場所事業 自立や進学における自らの課題を人と接する中から見
つけていく。自分や社会と向き合う第一歩。
- 自立支援事業 利用者が「カフェジョイフル」や「きんせいクリーン
サービス」を利用し、社会へ出て働く練習をする。生活リズム改善、
就労トレーニングのための場所・プログラムの提供。
- 地域若者サポートステーション事業 厚生労働省より委託を受け実
施している単年度事業。15 歳～39 歳までの無業者を対象とし、キャ
リア・心理相談、スキルアップ・コミュニケーション講座の開催、ト
レーニング等を行う。
- 指定管理事業 「塩尻市勤労青少年ホーム」及び「体育センター」を
管理・活用しながら、イベント・講座・相談など若者たちの育成に関
する事業を行う。」
- CT (コミュニケーションツール) 事業部 コミュニケーションカー
ドゲーム「言わせ種」など、若者支援現場で活用できるツールの開発・
普及。

ております。トレーニングの機会に生活リズムの
安定と、社会的自立に向けての心境の変化、そし
て不安な事から出来る自信へと、支援者が成長を
支えています。



交流会（クリスマス会）

利用をしているメンバーの交流や、気分転換の場
として月に 1 回交流会を行っています。クリスマ
ス交流会は毎年恒例となっており、子ども、若者
とスタッフがグループに分かれ、ゲームやクイズ
など行ったり、ケーキを食べておしゃべりをして
楽しく過ごしました。

～当日のスケジュール～

1. 開会の言葉
2. ゲーム&クイズ（前半戦）

3. 出し物披露
4. ゲーム&クイズ（後半戦）
5. お茶会&プレゼント交渉タイム

当日のグループはくじ引きで決めているので、
最初は皆さん初めての人もいたり緊張気味です
が、クイズやゲームと一緒に協力しながら行うこ
とで、自然と会話が始まり打ち解けていきました。
お茶会&プレゼント交渉タイムでは、ゲームを行
ったチームでテーブルを囲みゲーム&クイズの好
成績のチームからお楽しみ袋を選んでもらい、中
身を「プレゼント交渉タイム」で、交換したいア
イテムがあれば相手に声をかけ交渉しています。
交渉の時間は、コミュニケーションの練習にもな
っています。



勉強したくてもできない そんな子どもたちのために

静岡県

静岡学習支援ネットワーク

支援対象: 経済的困難や不登校等の事情により勉強したくてもできない中学生

支援方法: 学習支援

スタッフ数: 40 名程度

実施団体: 静岡学習支援ネットワーク

代表者: 天池優斗

静岡県立大学 HP より



住所: 〒422 - 8526 静岡県静岡市駿河区谷田 52 番 1 号
静岡県立大学内
TEL: 070-6582-3264
e-mail: study.at.shizuoka@gmail.com

成り立ちと活動の全体像

勉強したくてもできないという思いを持った大学生によって、2012年2月に設立された。

設立から現在に至るまで、大学生によって事業が運営されてきた。子どもたち一人ひとりに寄り添った支援を、という信念の下、無償学習支援教室を展開している。

現在では、毎週1回の無償学習支援教室を静岡県静岡市内の3カ所で開催し、28名の中学生が毎週教室で、大学生と勉強をしている。

教室では、大学生がマンツーマンないし少人数形式で子どもたちと接し、学校の宿題をするだけでなく、普段の悩み事なども相談する場となっている。

2015年3月10日に一般社団法人格を取得し、一般社団法人静岡学習支援ネットワークとして、新たなスタートを切る。

ある日の活動風景

18:00 教室を行う会場に大学生が集まり始め、教室の準備を行う。この日の連絡事項、配布物等を確認し、それぞれのスタッフが担当生徒の情報を確認する。

18:30～ 生徒が集まり、教室が始まる。最初は大学生とお話をする子どもたちが多く、徐々に勉強モードへ。たまに休憩をはさみながら、学校の宿題、問題集、練習問題などに取り組む。

19:45 勉強の区切りのいいところで、この日の学習内容を振り返る「振り返りシート」に、やった勉強内容を記入。自分のやったことを振り返る。

20:00 教室が終わり、中学生たちが部屋を後にする。大学生スタッフは、施設の入り口までお見送り。

20:20～ スタッフで反省会を行う。子どもたちの情報を共有するほか、必要に応じて改善点などを出し、今後の教室に活かす。反省会が終われば、片付け・清掃をして大学生も解散。

沿革

- 平成 24 年 2 月 静岡学習支援ネットワーク発足
- 平成 24 年 5 月 無償学習支援教室「宿題カフェ」を静岡市葵区で開講
- 平成 24 年 10 月 無償学習支援教室「みらこや」を静岡市清水区で開講
- 平成 26 年 12 月 無償学習支援教室「あべこや」を静岡市駿河区で開講
- 平成 27 年 3 月 一般社団法人静岡学習支援ネットワーク設立

主な活動

学習支援・居場所支援

勉強したくてもできない中学生を対象に、大学生がマンツーマンないし少人数で勉強を教える無償学習支援教室を実施。勉強だけでなく、子どもたちにとって、家でも学校でもない居場所となれるよう、季節ごとにイベントを開催し、交流を深める。

講演会活動

年に 1~2 回程度行う活動報告会に外部講師を招き、子どもの貧困問題等についての啓発活動を行う。



印象深いエピソード

静岡学習支援ネットワークはこれまで 3 年間にわたり無償学習支援活動を続け、30 名弱の卒業生を出してきました。中学生一人ひとりの貴重な時間に、教室という場を通して関わったことにとっても感謝しているとともに、その分の責任というものも強く感じています。

そんな中、印象に残っているのは、子どもたちにとって人生で初めて経験するであろう受験、高校受験に関することです。

年度末に近づくと教室に通っている受験生たちは、

いつも以上に真剣になります。普段はおしゃべりしてばかりだった子どもたちも、教室の時間中に大学生と一緒に受験勉強に真剣に取り組むことはもちろん、中には教室前の時間や教室後の時間で、空いているスペースを見つけては必至で勉強している子どもたちもいました。教室を運営している大学生スタッフたちとしても、頑張っている子どもたちを志望校に合格させてあげたいと強く思い、できる限りのサポートをしました。

入試の日の教室で、教室前後の時間に毎週勉強していた子は、試験がとてもよくできたそうで、満足そうにしていました。それを見て大学生スタッフも一安心。しかし、合格発表の日、スタッフが電話で可否を確認すると、不合格だったとのこと。次の教室に来てくれるか、どのように接してあげたらいいか、とても不安でしたが、落ち込んだ様子など全く見せずに教室へ。いつも通りの明るい雰囲気でした。

入試の結果ももちろん大切。でも、彼女には受験に向けて一生懸命努力したことを、これからはずっと忘れてほしくないな、と思いました。

さまざまな要因によって社会的に排除を受けている子どもや若者に対して、並走型のサポートを行い、子どもの貧困化を防ぐ

埼玉県

特定非営利活動法人
さいたまユースサポートネット

支援対象: 中高生から 30 代までの子ども・若者
支援方法: 生活保護受給世帯の中高生に対する学習支援、不登校・引きこもり・貧困・障がい等で生きにくさを抱えた子ども・若者への居場所の提供
スタッフ数: 45 名
実施団体: 特定非営利活動法人
さいたまユースサポートネット
代表者: 青砥 恭



住所：〒330-0064
埼玉県さいたま市浦和区岸町 6-1-2 小池ビル
TEL: 048-829-7561 FAX: 048-829-7563
e-mail: saitama.yn@gmail.com
URL: <http://www.saitamayouthnet.org/>

成り立ちと活動の全体像

居場所がなく、ひとりぼっちで生きる子ども・若者の仲間づくりを応援
 家庭や学校、職場に居場所がない子ども・若者に居場所を提供
 不登校・中退した子ども・若者たちの学び直しの場の提供
 子ども・若者の地域のコミュニティづくりを応援し、社会的排除や貧困化を防ぐ
 子どもを貧困から守る地域のネットワークをつくる



交流スペースで参加者が自由に交流している様子



学生ボランティアとマンツーマンで学習する様子

沿革

平成 23 年 3 月 さいたまユースサポートネット設立
 平成 23 年 7 月 NPO法人格を取得
たまり場（居場所事業）開始
 平成 24 年 5 月 さいたま市生活保護学習支援教室開始
 平成 25 年 8 月 さいたま市若者自立支援ルーム開所
 平成 25 年 9 月 地域若者サポートステーションさいたま開所
 平成 25 年 9 月 生活自立・仕事相談センター大宮開所

主な活動

- ・居場所がなく、ひとりぼっちで生きる子ども・若者の仲間づくりを応援
- ・家庭や学校、職場に居場所がない子ども・若者に居場所を提供
- ・不登校・中退した子ども・若者たちの学び直しの場の提供
- ・子ども・若者の地域のコミュニティづくりを応援し、社会的排除や貧困化を防ぐ
- ・子どもを貧困から守る地域のネットワークをつくる

葛飾区次世代育成支援団体 ハーフタイム

支援対象: 小学4年生から中学3年生まで

支援方法: 学習支援 子どもの居場所づくり 子ども及び
保護者に対する相談事業

スタッフ数: 11名(正会員)16名(登録学生ボランティア)

実施団体: 葛飾区次世代育成支援団体 ハーフタイム

代表者: 高村玲子



住所: 〒125-0042 葛飾区金町1丁目6番1-412号高村方
TEL: 03-3609-8489 FAX: 03-3609-8489

成り立ちと活動の全体像

生活保護のCWが子ども達への支援を検討しているうちに、自分たちで支援団体を設立することになり、地域で活動していたBBS会のメンバーの力を借りて学習支援活動を開始することになった。

参加児童・生徒と学生ボランティアによる広報誌の作成

様々なイベントを開催した後、参加児童・生徒と学生ボランティアで、イベントの内容や普段の活動などを報告する広報誌を作成し、インターネットを介して周知している。

参加児童・生徒が企画したイベントの開催

定期的に行っている親子イベント(バーベキュー会・クリスマス会など)のほかに、不定期に子ども達と学生ボランティアで企画したイベントを開催することにより、子どもがこれまで経験したくても出来なかったことを経験させるとともに、親以外の大人や大学生との交流を図っている。



沿革

- 平成23年1月 団体設立
- 平成23年2月 東京都葛飾区内の宿所提供施設において学習支援を開始
- 平成23年10月 家庭訪問による学習支援事業開始
- 平成23年10月 NPO法人Teach for Japanとの協働による学習支援を開始
- 平成23年11月 NPO法人セカンド・ハーベスト・ジャパンより食料の提供を受けるようになる
- 平成24年1月 支援会場を葛飾区金町地区に移す

主な活動

葛飾区の児童施設の一部を借りて、小学4年生から中学3年生を対象とした居場所 作りの学習会と、他の学習支援団体との連携による学力向上のための学習会を実施。学習会の教師などは学生ボランティアを活用している。学習会では、学生ボランティアが受ける参加児童・生徒の悩み事相談やスタッフが保護者より受ける様々な相談を受けている。学習会に参加出来ない不登校の児童・生徒には、学習会に参加できるようになるまで、家庭訪問により学習支援を行っている。定期的に、親子で参加できる催し物を実施(バーベキュー会・クリスマス会・高校学園祭見学・お花見会・料理教室など)し、保護者との交流を行っている。

地域の繋がりによる青少年支援

東京都

子ども村:ホットステーション

支援対象: 荒川区在住の中学生と高校生

支援方法: 食事の提供、生活や学習の相談等

スタッフ数: 約 20 名(ボランティアスタッフ)

実施団体: 子ども村:ホットステーション

代表者: 大村 みさ子



住所: 〒116 0012 荒川区東尾久 6 16 22 3F[※]@スペース
URL: <http://www.hotstation-arakawa.com/>

成り立ちと活動の全体像

「子ども村:ホットステーション」は荒川区役所の主催する区内在住の小中学生に対する学習支援事業との連携も視野に入れながらも、学習面に加えてさらに生活面での支援が必要であるとの問題意識から発足したボランティアのグループです。誰もが「ホット」できるような「居場所」ということで「ホットステーション」という名称になっています。

荒川区内の児童生徒の日常生活の支援ということで、食事の提供をはじめとして、児童生徒の日常生活や学習における悩みについて「地域の大人」

であるボランティアスタッフが聴いています。保護者の都合で夜遅くまで一人で過ごさなければならない児童生徒や学校とはまた違った「居場所」を求める生徒が安心して過ごせるような「居場所づくり」を目指しています。

印象深いエピソード

家庭ではあまり会話がなないせいか、話すのが苦手であった中3生が活動への参加とボランティアスタッフとの継続的なコミュニケーションを通じて語彙力も増えて明るく他人と会話できるようになった。

沿革

- 平成 25 年 9 月 荒川区社会福祉協議会の後援により、新しい「居場所づくり」のための準備委員会が発足する(地域の児童青少年員や民生委員が中心となる)。
- 平成 26 年 5 月 活動開始(荒川区社会福祉協議会からの助成開始)
- 平成 26 年 8 月 受験生(中学3年生)のための夏休み期間限定の学習支援「今からゼミ」
- 平成 27 年 1 月 子供・若者フォーラムへの参加

主な活動

食事の提供

保護者の都合等で夜遅くまで一人で過ごさなければならない児童生徒に対して夕食の提供を行う。

学習相談

勉強の方法や計画の立て方について大学生スタッフが対応を行う。必要であれば、荒川区の学習支援事業への紹介も行う。

その他の相談

日常生活における悩み事等について「地域の大人」であるボランティアスタッフが対応する。

「開いてよかった！」福祉のコンビニ

神奈川県

社会福祉法人 明星会

支援対象: 知的障害者

支援方法: 施設入所支援 生活介護

スタッフ数: 103 名

実施団体: 社会福祉法人 明星会

代表者: 安藤 進

住所: 〒250-0052 神奈川県小田原市府川 752-5

TEL: 0465-32-7740 FAX: 0465-32-7741

e-mail: info@takenokogakuen.jp

成り立ちと活動の全体像

南足柄市の市町を 5 期務めた初代理事長が、福祉施設を始めるに当たり、地域で必要とされる施設を小田原市にたずねたところ、当時の知的障害者更生入所施設が必要だ、との回答を受け、設立に至った。

施設入所者の地域移行

平成 24 年から入所者の地域移行の準備を始め、平成 25 年 4 月に 10 名の施設入所者が地域のグループホームへ移行した。長年施設暮らしをしていた入所者は、地域のグループホームでの生活を楽しんでいる。

入所者全員へ成年後見人をつける運動

平成 15 年より入所者へ成年後見人をつける準備を始め、平成 16 年より随時成年後見人をつけ始め入所者全員に成年後見人等をつけることができた。入退所があるため、10%の維持は難しいが、新しく入所をした利用者へも随時成年後見人の申し立てを行っている。

沿革

- 平成 4 年 12 月 社会福祉法人設立
- 平成 6 年 4 月 竹の子学園開設
- 平成 6 年 6 月 竹の子ケアセンター開設
- 平成 10 年 4 月 パン工房ハッピー開設
- 平成 11 年 4 月 竹の子ホーム開設
- 平成 18 年 4 月 相談支援センターエール開設
- 平成 24 年 5 月 ハッピーONE・STEP（学習支援）開始

主な活動

- 竹の子学園：障害者支援施設・施設入所支援、生活介護
- 竹の子ケアセンター：多機能型・生活介護、自立訓練
- 竹の子ホーム：グループホーム
- パン工房ハッピー：多機能型・就労継続支援 B 型、就労移行支援
- 相談支援センターエール：指定特定相談支援、地域移行地域定着

すべての青少年が周囲の人々から見守られ、人のつながりのなかで成長していくことができる社会を醸成する

神奈川県

公益財団法人 よこはまユース

支援対象: 小・中・高校生

支援方法: 青少年を対象とした、多様な体験機会や地域における居場所の提供

スタッフ数: 67名

実施団体: 公益財団法人 よこはまユース

代表者: 三田 修

住所: 〒231-8454 横浜市中区住吉町 4-42-1
関内ホール地下1階

TEL: 045-662-3716 FAX: 045-662-7645

e-mail: kikaku@yokohama-youth.jp

URL: <http://www.yokohama-youth.jp>

学習支援での様子

ある子は、学習することが好きではなく、宿題をだしたこともありませんでした。一緒に学習を始めようとする、ウソをついたりなにかやと理由をつけては、その場から逃げようとしていました。それでも、その子の気持ちを受け止めたうえで、こちらがしてほしいことを伝え、できたこと

は認めて褒めるというように、子どもに寄り添いながら学習サポートを続けました。成績が少しずつ上がり、自信が序々に備わってきた今では、学習に向かう時間が増え、そのことに反比例するように、ウソや言い訳が減っているように感じています。

沿革

- 平成 17 年 4 月 横浜市の行政改革の一環として（社）横浜ボランティアと（財）横浜市科学普及協会を解散統合し財団法人横浜市青少年育成協会設立
- 平成 18 年 4 月 青少年施設等を第 1 期指定管理者として管理運営
- 平成 23 年 4 月 公益法人制度改革に伴い、公益財団法人よこはまユースへ移行
- 平成 24 年 11 月 西区より、寄り添い型学習支援事業を受託

主な活動

- ・ 青少年活動を支援する事業 青少年活動の普及、啓発を目的とした講座や情報提供、地域で行われる居場所づくり活動のサポートを実施
- ・ 青少年を支える人材を育成する事業 主に地域で青少年に関わる大人を対象とした研修
- ・ 講座を実施
- ・ 青少年施設（3館）の管理、運営
- ・ 放課後キッズクラブ事業の運営（市内 18ヶ所）小学校の施設を活用して、全ての子どもたちにとって安全で快適な「放課後の居場所」を提供

地域と共生、新たな歩み

新潟県

一般社団法人 新潟県母子寡婦福祉連合会

支援対象: ひとり親世帯の支援

支援方法: 県内市町村共催によるセミナー

スタッフ数: 連合会事務局 5 名 会員 600 名

実施団体: 一般社団法人新潟県母子寡婦福祉連合会

代表者: 中野キミ子

住所: 〒950-0994 新潟県中央区上所 2 丁目 2 番 2 号新潟
ユニゾンプラザ 3 階

TEL: 025-281-5546 FAX: 025-281-5547

e-mail: ni-kenboren@moon.odn.na.jp

成り立ちと活動の全体像

新潟県母子寡婦福祉連合会は、戦後間もない昭和 26 年に、みどりの会連合会として発足し、昭和 39 年に、社団法人に組織替え、平成 25 年 4 月 1 日に一般社団法人に移行。戦後未亡人会として発足以来、生活の安定と子供の健全育成のため、また、近年は離婚によりひとり親世帯、県内 1 万 5 千世帯。福祉から就業へを合言葉に日々努力している。

ある日の活動風景

新潟県母子寡婦福祉大会

年 1 回、新潟県内を上・中・下越と分け、順番で、会員(当連合会)及び行政等関係者が一堂に会し、母子寡婦(ひとり親家族)の自立促進、福祉の向上等を目指し開催する。

ひとり親加齢情報交換事業

ひとり親(特にならば間もない家庭)は、生活環境の変化が著しく、親自身が生活の中で直面する問題に一人で悩み、精神面でも不安定な状況にある。このことから、ひとり親家庭が定期的に集い、お互いの悩みを打ち明けたり相談しあう場を設ける。

沿革

- 昭和 26 年 緑の会連合会として発足
- 昭和 32 年 新潟県母子寡婦福祉連合会として設立
- 昭和 39 年 社団法人に組織替え
- 平成 25 年 一般社団法人に移行

主な活動

- ・市町村母子寡婦福祉会の連絡調整及び運営指導
- ・母子寡婦福祉に関する企画・運動等
- ・母子家庭、寡婦の自立支援を目的とした行政機関からの受託事業の実施
- ・会報の発行
- ・ひとり親応援セミナー(情報交換事業)の開催(県からの委託事業)

家庭の経済的状況で 子どもの教育の機会に差をつけない！！

山梨県

子ども・教育・貧困問題を考える会
(略称 タダゼミ)

支援対象: 中学生

支援方法: 学習支援中心

スタッフ数: ボランティア講師数が 25 名

実施団体: 子ども・教育・貧困問題を考える会(略称 タ
ダゼミ)

代表者: 深沢久



住所: 〒408-0042 北杜市小淵沢町松向 760-10
TEL: 0551-45-9646 FAX: 0551-45-9646
e-mail: fukag9@song.ocn.ne.jp

成り立ちと活動の全体像

高校中退者の進路をみて、親と同じ貧困なる状況が多いのに気づく。又、中学生対象の進学塾の人から、「途中で授業料を払えない子どもが多くなっている」ともいわれ、貧困家庭の中学生に少しでも学習支援をしていこうと考えた。

「親の生活をみて、定時制高校を選んだ生徒」

A 子さんは父子家庭、毎週のゼミに父が送ってくる。その父は失業中で、生活保護の受給者でもあり、教育費には余り支出できない。特に子どもの衣食には不安であり、余計なものは買ってやれない。A 子さんは、その父に心配かけないように定時制に進路を決め、いま頑張っている。

「タダゼミの塾生が、こんどは支援の側に」

Y 君は 2 年間、このゼミで学習し、今春卒業（高校）予定。その Y 君は高校生の時、ゼミの講師として中学生に支援・援助。中学生のよき相談相手にもなる。その Y 君、京都の国立大学に合格。Y 君は祖父母に育てられた貧しい家庭の生徒。



沿革

平成 24 年 10 月 県、甲府市で支援を開始
平成 25 年 5 月 同 継続（南アルプス市で開設）
平成 26 年 5 月 県内 北杜市、韮崎市で開設（4ヶ所目）
平成 27 年 5 月 " 富士吉田市で開設（5ヶ所目）

主な活動

1. 中学生への貧困家庭の学習支援（週 1 回 3 時間）
県内 5 ヶ所で実施 他家庭に出向いての支援も
2. 夏に生徒の交流・学習の合宿
3. 一般の人、親など対象にしての「子どもの貧困」学習、講演会
4. 「学力」をとりあげての子どもの成長についての映画会や話し合い

だれもが自分らしく安心して暮らせる 地域協同社会づくりに貢献します

千葉県

特定非営利活動法人 VAIC コミュニティケア研究所

支援対象: 未就学児の親子、小学生～高校生

支援方法: 開設時間内の見守り・相談対応、開設時間内の見守り・相談対応

スタッフ数: スタッフ7名、スタッフ3名とボランティア(学生・地域)

実施団体: 千葉市子育てリラックス館(おやこひろば事業)、千葉市子どもカフェ(子どもの居場所事業)等

代表者: 理事長 佐々部 恵子 研究所

住所: 〒263-0051 千葉県千葉市稲毛区園生町 1107-7
生活クラブいなげビレッジ虹と風 2F(本部)

TEL: 043-290-8015 FAX: 043-290-8016

e-mail: info@vaic-cci.jp

URL: <http://www.vaic-cci.jp/>

沿革

平成18年 ボランティア活動情報センター(VAIC)NPO法人格取得

平成11年 コミュニティケア研究所(CCI)NPO法人格取得

平成21年5月 ふたつのNPO法人の合併により設立

主な活動

- ・相談事業・生活支援サービス事業
- ・地域交流事業(人と人の出会いの場「あみいこ」の企画運営・地域交流喫茶の運営)
- ・ボランティア活動支援事業
- ・社会参加推進事業
- ・生活困窮者支援事業
- ・子育て子育て支援事業(一時預かり・集団託児・こどもカフェ 3rd プレイス虹・子育てリラックス館)
- ・福祉サービスの評価調査事業
- ・後見支援事業
- ・被災地支援事業
- ・講師派遣事業

かしの理念 「退所してからも遊びに来たくなる施設」
「人間関係は捨てたものではない」
「時間をかけて見えてくる風景」

東京都

社会福祉法人新宿区社会福祉事業団
新宿区立かしわヴィレッジ

支援対象: 母子家庭 地域の低所得世帯の中・高生
支援方法: 生活全般支援、育児支援、就労支援、中高生の学習支援 / 入所、来所、訪問電話等による支援を行う
スタッフ数: 正職員 6 名、パート・学習ボランティア 9 名
実施団体: 社会福祉法人新宿区社会福祉事業団
新宿区立かしわヴィレッジ
代表者: 理事長 石崎洋子
かしわヴィレッジ施設長 渋谷行政

TEL: 03-3363-7521 FAX: 03-3363-7522